

わ
輪を和でつなぐ

広報

しまはち通信



Shima8



全体集合写真

5周年を迎えて

－「輪」を「和」でつなぐ－

この理念のもとに、島田療育センターはちおうじ（島はち）は、平成23年4月4日に歩みを始めました。

「水面（みなも）に放たれた一つの石。その石がまっさらな水面に波紋を描いていきます。その石は、「子ども」です。「家族」です。その波紋は、はじめは小さいけれど、ゆっくりと広がっていきます。大きな輪をかもし出していきます。その「輪」を和みの「和」でつなげます。そして、笑顔の「輪」で包み込んでいきます。「輪」をつなげるのは、私たちです。「子ども」「家族」に関係するすべての人々が「輪」をつなげていきます。そんなイメージで、この理念は生まれました。

島はちの5年間の歩みの中、－「輪」を「和」でつなぐ－の理念の実現のために、常に考えていたのは、「いのち」です。

五周年記念では、「いのちのケアセンター」センター長・子どもを亡くした親と家族を支える会（星の会）代表の武田康男先生は「初めの愛・応えること・希望」、昭和大学さいかち学級の副島賢和先生は「涙も笑いも力になる」というテーマで、「いのち」について、話してくださいました。

それを紹介しましょう。

武田先生は、口唇口蓋裂、ダウン症のお子さんが生まれたときに、まず駆けつけて「心からご出産おめでとうございませう。」と伝えます。家族の不安に寄り添っていきます。いのちの支援としてのカウンセリングは、1. 祝福と共感をもってそこにいる。2. 問題の理解（事実を知る）を共有する。3. 希望（解決の道筋）をとともに抱く。であると話してくださいました。

副島先生は、院内学級の子どもの作文を紹介してくれました。そのうちの一つに、幼い時から内臓疾患を抱え、手術を何回も繰り返した男の子の作文を紹介していました。

「ぼくは幸せ」

お家にいられば幸せ

ごはんが食べられれば幸せ

空がきれいだと幸せ

みんなが

幸せと思わないことも

幸せに思えるから

ぼくの周りには

幸せがいっぱいあるんだよ

この詩を書いてしばらくして、男の子はお星さまになりました。

二人が、共通して語っていたのは、「Do」と「Be」です。「何かをする」ことだけではなく、「ともにいる」ことが大切であるという複眼的視点を持つこと、存在していることの価値を説いてくれました。

五周年記念は、150名近くの方々が集まってくれました。

－「輪」を「和」でつなぐ－

島はちをつないでくれていたのは、皆さんです。その喜びをかみしめながら、新たな旅立ちを始めます。皆さん、よろしくお願ひいたします。
（所長 小沢 浩）





平成23年4月、小沢所長の下「輪」を「和」でつなぐという理念を掲げ、島田療育センターはちおうじは歩み始めました。小沢所長始め職員が、この理念の実現のため

に常に考えてきたのは「いのち」です。記念講演を行うにあたり、お二人の先生をお招きしました。武田先生は医療法人恵悠祐会新小文字歯科クリニック「いのちのケアセンター」センター長、「星の会」代表などを務めていらっしゃいます。副島先生はドラマ「赤鼻のせんせい」のモデルでもあり、昭和大学大学院准教授、昭和大学病院内学級の担当もされております。お二人の先生から改めて「いのち」について感動的で暖かいお話を聴くことができました。



武田 康男先生

武田先生からは、いのちと向き合った具体的なお話がありました。産まれたばかりのお子さんが余命数ヶ月と告知され、ただ泣くばかりの母が医療スタッフと共に数分の散歩に出ます。母は赤ちゃんの頬にそよ風あたり、その瞳に山並みが見えた瞬間、子どもとの濃密な時間を作ったことを実感します。母は子どもの生の充実、「いのち」の充実を確かに掴んだのだと話されました。かけがえのない「いのち」を失った深い悲しみ、喪失感に襲われながらも、心の中で家族としての関係は継続する。「いのち」が継続して、未来が開けていくのだ。「いのち」とは何か、まさにここにテーマに対する根源的な問いかけと答えの方向性がありました。

悲しみや不安を抱えたご家族の問いかけに、安易に言葉だけの解答を答えても無意味であると武田先生は話されました。大切なのは、複眼的な感性で応答し続けることであると。関わりを絶やさずに繋がっていくことで、言葉とは違う応え方があると、受容支援での向き合い方の大切さを話されました。

療育に携わる私達自身が改めて「いのち」を考える時、思いに寄りそうとはどういうことか。それは子どもと家族と共に時を共有し、喜びや悲しみを共有する。そして、歩みを共有できる関係を繋ぎ、問いかけに答え続けることであると教えていただきました。



副島 賢和先生

副島先生からは、院内学級にいる子ども達から見えてきたもの、先生自身が大切にして関わり続けているものなどをお話しいただきました。病気と向き合いながらも、つらい現実の中でつぶれてしまいそうな心を持った子供達と、寄り添いながら過ごしておられる副島先生のお話は、どれもが重く大切ないのちの話でした。

クリスマスもお正月も、ベッドの上にはいない小1の子どもが書いた詩「行きたいな」の中に、自分の心を一生懸命納得させて一步一步進もうとしている話。病気になってしまったことを家族に申し訳ないと思ってしまう子どもの話。否定的な自己イメージしか持てない子どもを、なんとか肯定的な自己イメージを持たせ、子どもの心に戻りたい、子どもの心を解きほぐしたいと働きかける話。

クリスマスもお正月も、ベッドの上にはいない小1の子どもが書いた詩「行きたいな」の中に、自分の心を一生懸命納得させて一步一步進もうとしている話。病気になってしまったことを家族に申し訳ないと思ってしまう子どもの話。否定的な自己イメージしか持てない子どもを、なんとか肯定的な自己イメージを持たせ、子どもの心に戻りたい、子どもの心を解きほぐしたいと働きかける話。

つらさの中で自分の感情に蓋をしてしまっている子ども達に「悔しい、悲しい気持ちなど、どんな気持ちも持っていいんだよ」と、受け入れてあげることが大人の役割だと教えられました。また、病気による困難を抱える子ども達に、そこに存在していることだけで素敵な価値があることなのだという話を伝えたいと、副島先生の願いが熱く聴く者の心に届けられたのではないのでしょうか。

お二人の先生の講演後は、当センター所長の小沢浩医師を交えてのシンポジウム形式で進めました。会場の皆様の質問に答えつつ、講師の先生方のお考えをお話しいただきました。

今回の記念講演会では、さまざまな立場の方が参加して下さいました。アンケートからも、お二人の先生方の素晴らしい話を聴き自分自身を見つめ直し、考える機会となったようです。「支えとは、いのちに向き合っているという理解と感性が試される場にたつこと。」と、武田先生が話されました。これからは私達が療育の場で直接いのちと向き合いながら、その関わり方を捉え直していきたいと思います。

(診療科 豊島 智子)

新成人・セカンド成人を祝う会

今年度20歳になった新成人1名と40歳を迎えたセカンド成人1名の方をお祝いする「新成人・セカンド成人を祝う会」を1月8日に行いました。



小沢所長や来賓、利用者様からお祝いの言葉を頂いたり、ご家族に感謝の気持ちを伝える式次に続き、「ひまわりの約束」をみんなで歌い、これからも元気に過ごしていこうとの意欲と絆を強くしました。式の最後には20年、40年と過ごされてきた思い出のたくさん詰まったそれぞれのアルバムから選りすぐった写真のライドショーと共に、ご家族からのお祝いメッセージがあり、成人になられた方は次はセカンド成人、セカンド成人になられた方は今度は還暦を目指すと思気込んでおられました。

午後は、セミプロの歌手を招き、めでたいこの日をさらに盛り上げました。初めは素敵な歌声にうっとりしていたら、途中からは鉢巻を締めて沖縄民謡に合わせて利用者様、ご家族、スタッフ一体となって踊ったり、大きな花を手に持ち「世界にひとつだけの花」を歌ったりする大忙しの全員が参加する楽しいコンサートでした。

コンサート終了後も笑顔が絶えず、お祝いに相応しい行事の一日でした。

(通所科 向井 裕基子)

少年野球チームとのお餅つき



毎年恒例となっている八王子市内の少年野球チーム（アストロジャガーズ）との交流もちつきを1月5日に行いました。



当日はアストロジャガーズの選手10数名と通所ご利用者及び外来ご利用者として臼、杵を用いて盛大にお餅をつきました。最初は慣れないもちつきに緊張していた皆さんも徐々に慣れ、次第に皆さん大きな声で「よいしょー」とかけ声をかけ合えるようになり、大きな輪になり、その輪の広がりを感じることでできるお餅つきとなりました。

(通所科 大谷 聖信)



Be in Voices コンサート



者様、スタッフともにリハーサルの声や歌が聞こえるだけで、コンサートへの期待が高まり、早く生のコンサートが聴きたいとそわそわしている様子でした。午後になり、いざコンサートが始まると、利用者様もその声量や生み出されるハーモニーに自然と身体が動き、全身を使って音楽の楽しさを表現されていました。また、その他の来場された皆様も素敵な音楽に心地よい時間を過ごされ、まさしく音楽を通して当センターの理念に相応しく「輪」を「和」でつなぐことができたコンサートとなりました。

(通所科 大谷 聖信)

昨年の10月30日にアカペラコーラスグループ「Be in Voices」の皆さんによるコンサートが開催されました。『Be in Voices』は音楽大学在学中に結成され、現在はライブ、イベントなど、全国各地で活動されています。また、日本テレビドラマ『妖怪人間ベム』ではコーラス、楽器の音を担当していました。今回のコンサートは福島復興支援コンサートに行く途中で、島はちにわざわざ寄り、実現したものでした。コンサート当日は利用



JICA「母子保健福祉行政」研修受け入れ



2月5日(金)、平成27年度母子保健福祉行政研修を実施しました。参加者はフィリピン(1名)、タイ(1名)、カンボジア(2名)、東ティモール(1名)、ベトナム(1名)、ミャンマー(2名)、ニカラグア(1名)、ガーナ(1名)、アゼルバイジャン(2名)、ウクライナ(1名)、ウズベキスタン(2名)の11か国15名、日本人通訳3名、国際厚生事業団2名、国立国際医療研究センター医師1名、オブザーバー1名の計22名が来院しました。職種は医師、看護師、行政官等でした。

まず船沢副所長により当センターの成り立ちと現状をお話して頂きました。次にSさんにお子さんのHさんと一緒に参加して頂き、これまでの経過とその時の思い、今後に期待すること等をお話して頂きました。ご家庭や学校での実際の状況を詳しくお話して下さり、在宅での医療ケアについてのお話では研修員は皆驚いておりました。小沢所長からは自身

のお母様のお話や命について、療育について、「輪」を「和」でつないでいくことへの熱い思いが伝えられました。えみんぐ見学後、院内見学しながら各科の訓練場面を見て頂きました。



この研修は1月31日から2月27日まで「母子保健及び児童福祉を範囲として、格差緩和の切り口から自国の母子を取り巻く環境の改善に向けた施策に関し知見を得、自国への適用を検討する」という目標で行われました。研修後のアンケートでは、一番印象に残っている施設として当センターをあげた方が多くいらっしゃったそうです。研修は終了となりましたが、これからも「輪」を「和」でつなぐ精神が広がっていくことと思います。(福祉科 石井 智代)



暖かい日差しが気持ちいい季節になってきました。

最近、散歩中にある陶芸家の作品に一目ぼれし、マグカップを購入しました。それをきっかけに、これまで関心のなかった陶器に興味をもち、いろいろな器を集めたい!と思うようになりました。

ということで、様々な器が一気に見られる所はないかな〜と探していたところ、「テーブルウェアフェスティバル」というイベントがあることを知りました。毎年2月に東京ドームで開催されていて、世界各国のメーカーがテーブルコーディネイトを展示したり、コンテストが開催されたりする他、日本全国の窯元や陶芸家の作品が一同にみられる展示物販コーナーがあるとか! 250以上ものブースが出展するとのことなので、間違いなくすてきな作品に出会えそうですね。残念ながらイベントは逃してしまったので、今年はいろいろな場所に出かけて、少しずつお気に入りのを増やしていきたいと思います。



皆さんの食卓には、どんな器が並んでいますか?

(リハビリテーション科言語聴覚士 尾井しず恵)

おしらせ information

【講座】
『就学情報交流会』
6/18(土) 9:30~中学校
13:30~小学校
◆場 所…当センター
◆申込み電話番号…042-634-8758
◎費用500円。お気軽にご参加下さい。

島田療育センターはちおうじ 小児診療

こどもクリニック
えみんぐ

■各種 予防接種を行っています。
予約制となりますので、詳しくはお電話でお問い合わせください。

■診療内容

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	●	●	●	●	●		
13:45~14:45	予	予	予	乳	予		
15:00~17:00	●	●	●	●	●		

予…予防接種 乳…乳児健診
*土日他、祝日も休診となります

TEL. **042-634-9008**

